

豊橋市行財政改革プラン外部検証委員会による 行財政改革プランの評価等について

豊橋市が豊橋市行財政改革プラン（平成 23 年度～27 年度）の総括報告書を公表するにあたり、豊橋市行財政改革プラン外部検証委員会として、その取組の評価及び本プランで新たに導入した外部評価の成果と課題について、意見をまとめ公表いたします。

豊橋市行財政改革プラン外部検証委員会は、豊橋市の行財政改革に関して外部の視点で検討し、意見を市長に述べるもので、委員 8 人以内で構成されるものです。

取組の評価

行財政改革プランの策定直後には、東日本大震災という未曾有の自然災害が発生しました。この大震災は、国や地方の経済環境のほか安心安全に関わる事業投資の増大など、自治体の財政状況にも影響を与えました。このようななか、経常経費の見直しやスクラップアンドビルドの考えのもと、事業の選択と重点化に努め、市の財政指標について当初掲げた目標を概ね達成したことを評価します。また、防災リーダーの育成推進や公園アダプト制度の導入など市民協働の取組も推進され、行財政改革プランに掲げた 168 の取組は、目標に向けて着実に進捗が図られたと評価します。

外部評価の成果と課題

豊橋市行財政改革プランにおいては、市職員による内部評価に加えて外部評価を導入し、プランの進捗を図ってきました。この外部評価の成果と課題は、次のとおりです。

成果として

1. 内部評価だけでなく外部評価を取り入れたことで、取組の進捗管理において評価の客観性や透明性が高まりました。
2. 外部評価結果を踏まえた取組手法の改善や予算要求が行われ、取組の PDCA サイクルの充実が図られました。
3. 取組の目的や目標、成果を市民に説明し、意見交換する場として公開プレゼンテーションを実施し、市民と取組内容について共有できました。

課題として

1. より客観的な評価を行うため、取組の定量的な目標を適正に定める必要があります。また、必要に応じて定性的な目標と組み合わせて設定するなど、目標の十分な検討が必要です。
2. 取組によっては、当初の目標設定が高過ぎることや期間中の状況変化により相当の努力をしても目標達成が困難である場合などがあり、実情を踏まえて取組期間中に目標の見直しを行う必要があります。ただし、十分な努力が行われたか、手法は適切であるかを検証するなど、市役所内部の評価の充実を図る必要があります。
3. 外部評価にあたり、より正確な情報を得る方法として、調書の確認のほか関係課へヒアリングを実施するなど、外部評価方法の再検討が必要と考えます。
4. 外部検証委員会では、部局別行動計画に掲げる取組項目に関する評価・検証を主に行ってきましたが、プランに掲げる取組以外の行財政改革に関することに意見するなど、その役割を含めて見直すことも必要と考えます。

平成 28 年 9 月 5 日

豊橋市行財政改革プラン外部検証委員会

| | |
|------|---------|
| 委員長 | 石 原 俊 彦 |
| 副委員長 | 世 羅 徹 |
| 委 員 | 伊 藤 眞 芳 |
| 委 員 | 大久保 裕美子 |
| 委 員 | 功 刀 由紀子 |
| 委 員 | 諏 訪 一 夫 |
| 委 員 | 富 田 真知子 |
| 委 員 | 村 松 史 子 |